

土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会
佐賀低平地への適応策実装検討小委員会（第24期 第2回）

議事要旨

- 日時 平成30年11月19日（月曜日）15時00～17時00分
- 場所 国土交通省武雄河川事務所（佐賀庁舎） 1階会議室
- 参加者 荒牧、池田、小松、財津、田中、戸田、橋本、望月、山本
（五十音順、敬称略）
オブザーバー：土井 佐賀県県土整備部河川砂防課副課長（横尾委員代理）、武雄河川事務所職員、佐賀県職員

■議事概要

- (1) 前回の議事概要について
 - ・財津委員より説明。
- (2) 嘉瀬川・六角川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会及び佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会の活動報告
 - ・平成30年7月豪雨時の嘉瀬川・六角川・松浦川の出水概要、出水後に実施した避難に関する住民アンケート結果を含め、財津委員より説明。
- (3) 減災協議会等の取り組みから見えてきた今後の検討・研究課題の整理と取り扱いの方向性について
 - ・望月委員より説明。
 - ・配布・説明された検討・研究課題（案）を活用し、減災協議会として、必要な修正を加えた上でとりまとめて公表する方向で検討が進められることとなった。
- (4) 意見交換
 - ・議題（2）に関し、平成30年7月豪雨を踏まえて意見交換。主な内容は以下のとおり。
 - ① 自助・共助・公助の役割分担の明確化を
 - ・災害を我がことと考えてもらうため、自助・共助・公助の役割分担の明確化が必要。
 - ② 台風以外の豪雨を対象としたタイムラインに向けて
 - ・マイ・タイムラインづくりの経験と今回の豪雨時の対応状況から考えると、詳細な時間軸よりも行動項目の整理が極めて重要。特に自治会関係者の場合には最初の1日間が最も重要。
 - ③ 垂直避難が役に立たないケースの明確化と周知を
 - ・7月豪雨災害を教訓に垂直避難では守れない命があることを周知する必要。
 - ・地域の洪水特性に応じた避難の仕方を住民に周知する必要。その際、例えば、室内

- ・ 家具が邪魔をして垂直避難ができないなど、想定外の事態も考慮する必要。
 - ・ 災害リスクのある場所では家の建て方にも工夫が必要。
- ④ 減災協議会相互の連携を
- ・ 7月豪雨の経緯・課題を時間軸とともに議論・整理し、他の地域が知る仕掛けが必要。
- ⑤ その他
- ・ ダムのある地域ではダムの操作方法等を地域やマスコミに周知しておく必要。
 - ・ 避難行動に繋がるリアルタイム情報をあらゆる媒体（インターネット、ケーブルテレビなど）で発信することが重要。
 - ・ 住民に水害発生メカニズムを理解してもらう努力が必要。
 - ・ 対外的な広報では住民・マスコミから誤解を招かないようなアナウンスが重要。
 - ・ 避難の呼びかけは抽象的ではなく具体的に危険な箇所や水位の状況などを伝えることが大事。
 - ・ 避難行動に繋がる情報としてはローカルで切迫感のある情報が必要。首長からの避難の呼びかけ等は好事例。
 - ・ 議題（3）に関して意見交換。主な内容は以下のとおり。
- ① 防災意識の向上に向けた検討・研究課題（案）に関連して
- ・ 例えば、ダムの異常洪水時防災操作や支川合流部の水門閉鎖など、様々な事態に伴うリスクの周知も重要。
 - ・ 防災意識の向上のためには学校教育が最も効果的。その際、カリキュラムに組み込むことが重要。
- ② 市町職員の対応力向上に向けた検討・研究課題（案）に関連して
- ・ 例えばタイムラインづくりを例にとると、市町の部長クラスが参加することが重要。職員の取り組み姿勢向上に効果。
 - ・ 災害ボランティアの運営等について社会福祉協議会との事前協定が未締結の自治体が多い。協定の有無で動きが異なるため、取組を進める必要。
- ③ 市長、町長の決断に資する情報の抽出事例に関する検討・研究課題（案）に関連して
- ・ 2012年の九州北部豪雨時に熊本市には情報が殺到して苦勞された事例がある。
- ④ 面的な浸水予測・現況把握に向けた検討・研究課題（案）に関連して
- ・ 住民レベルでは、地域の水害リスクを知り、緊急避難場所をあらかじめ決めておくことが大事。
- ⑤ 大規模豪雨等に関する注目データ抽出に向けた検討・研究課題（案）に関連して
- ・ 災害時に注意報・警報以外にどのようなデータ（水蒸気密度等）を見るべきかを行政担当者が理解することは、価値がある。
 - ・ 降雨予測の精度向上には20～30年が必要とのこと。

⑥ その他

- ・7月豪雨の際の総社市下平地区など、過去の災害等で全戸避難した地域の組織づくりについて調査する価値がある。
- ・首長自らテレビや防災無線を通じて避難の呼びかけを行うのは効果的。避難行動につなげるためには具体的な水位情報や危険箇所を伝えることが大事。

(5) その他

- ・次回の開催日程については来年5月頃を目途に別途調整。